

## ヒアリング結果、政策研究テーマ例

---

**MRI** エム・アール・アイ リサーチ アソシエイツ

2025/10/27

**MRI** 三菱総合研究所

# 目次

---

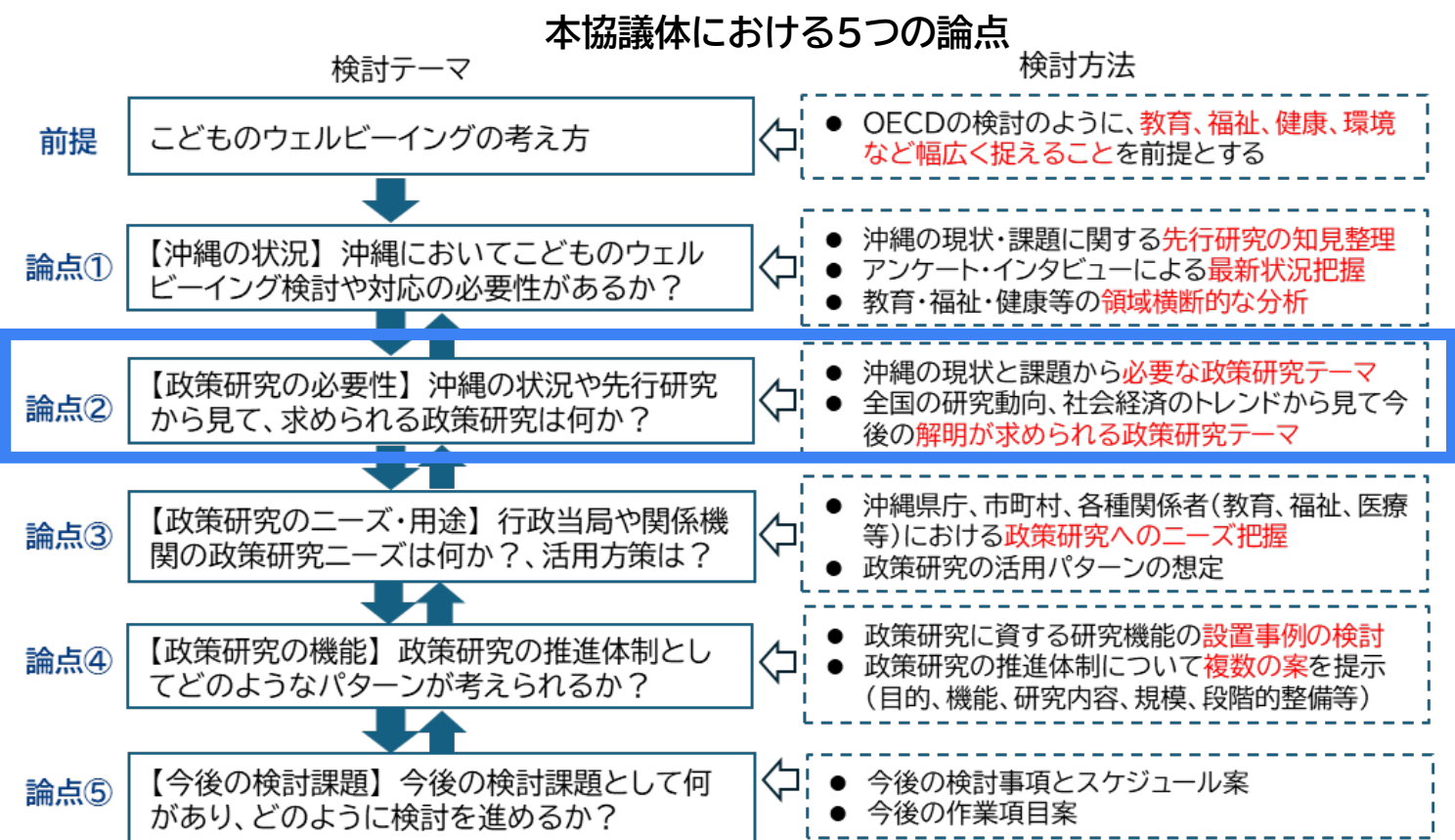
|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| 1.検討の進め方                               | 3  |
| 2.沖縄のこどものWB向上のために解明が求められる事項、求められる知見(例) | 6  |
| 3.沖縄のこどものWB向上のための政策研究のテーマ例             | 16 |
| 参考資料 既存の知見等                            | 23 |

# 1.検討の進め方

---

# 検討の進め方

- 本協議会の論点のうち、論点②「政策研究の必要性」に関連し、こどものWB実現のために行政、現場、家庭、地域において求められる知見、求められる政策研究についてのご意見をいただきたい。
- この検討は、今後、政策研究推進体制が求められることを確認するためのステップであり、本年度調査において研究テーマ案を確定させるものではないことに留意。
- 今後リバイスし、政策研究ニーズ(論点③)、政策研究の機能(論点④)等と合わせて提示予定。



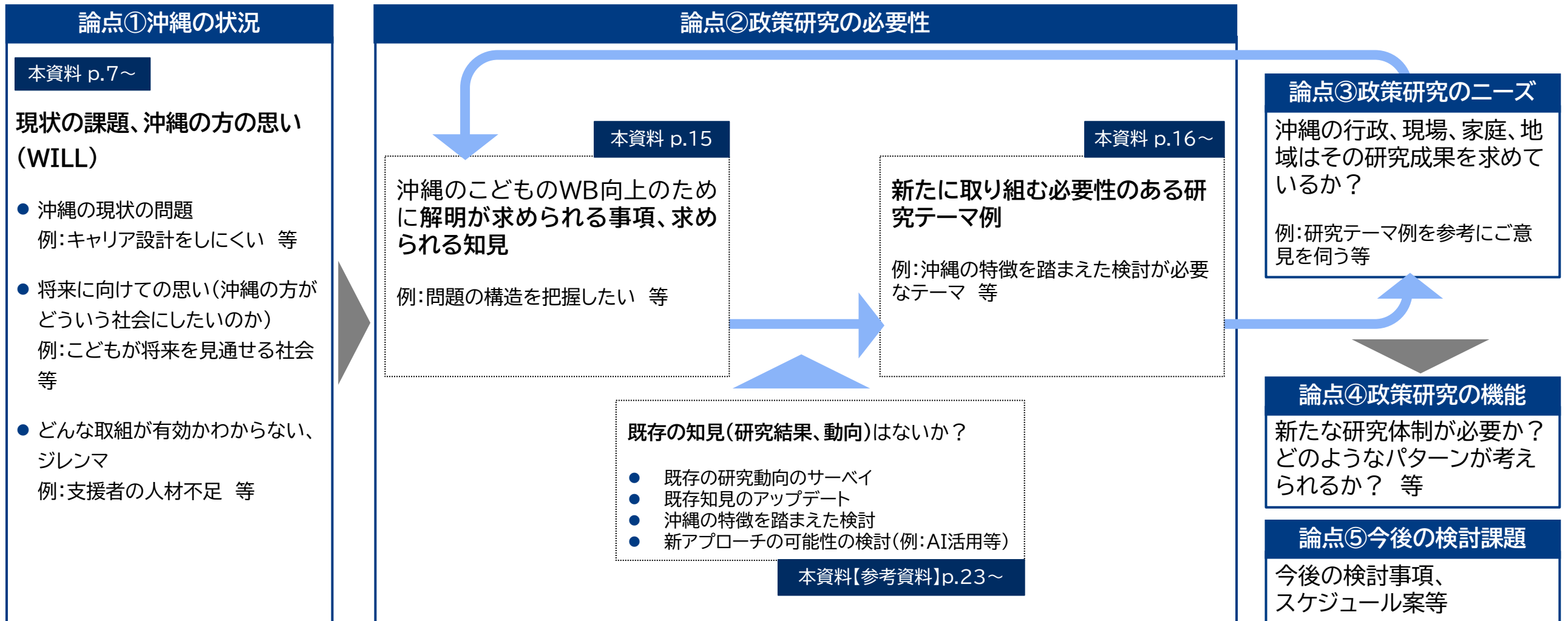
協議体の開催スケジュール

| 各回<br>(日程候補)            | 各回の検討テーマ、議題(論点番号は左図と対応)                                                         |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回<br>(令和7年<br>6月25日)  | 事業の目的を踏まえ、ウェルビーイングを導入する意義を明らかにしたうえで、協議体での本年度のゴールを共有する。(前提)                      |
| 第2回<br>(令和7年<br>8月29日)  | 既存調査・研究から見た沖縄のこどもの現状・課題を踏まえ、沖縄におけるウェルビーイング導入の必要性を明らかにする。(論点①②)                  |
| 第3回<br>(令和7年<br>10月27日) | 全国の政策研究課題や政策研究テーマの例を踏まえ、解明が求められる政策研究を明らかにする。(論点②)<br><b>追加して、研究体制の在り方を検討する。</b> |
| 第4回<br>(令和7年<br>12月12日) | 第3回の事例に追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。(論点②③)           |
| 第5回<br>(令和8年<br>2月中旬)   | これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。(論点④⑤)           |

※青字は今回追加。

# 政策研究の必要性の検討の仕方

- 沖縄の現状の課題・沖縄の方の思いをもとに、解明が求められる事項を整理し、既存知見の有無を確認した上で、新たに研究する必要性の検討を行う。
- 政策研究のテーマ例(論点②)はニーズ(論点③)を踏まえて見直す(ループ状の検討)。



## 2. 沖縄のこどものWB向上のために説明が求められる事項、求められる知見(例)

---

# 現状の課題、沖縄の方の思い ①第1回協議体のご意見(前回資料の再掲)

- こども長期的成長、こどもに関わるおとなのWB、学校との連携、サポートの仕方の改善、サービス供給体制の在り方等についての指摘あり。

## 第1回協議体におけるご意見(研究ニーズに関わるものの抜粋)

|                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 検討の基本的視点                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>沖縄の人がこういう社会をつくりたいというのがあったうえで介入策を考える必要がある。</li></ul>                                                                                                                                                                          |
| こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題           | <ul style="list-style-type: none"><li>今困難な状況にある人がどういうライフコースとなるか。苦しんでいる成人した人、若者はどういうこども時代を送ってきたか。</li><li>こどもは成長が重要。こうだったらこうなるというのを研究にしてほしい。</li><li>沖縄の子どもは進路未決定のまま高校卒業してしまうという問題がある。</li></ul>                                                                    |
| こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上の必要性                 | <ul style="list-style-type: none"><li>関わるおとなの幸福度が上がると子どもの幸福度もあがる。／保護者のウェルビーイングがないといけない。／大人のウェルビーイングもしっかりと。</li><li>大人の意識が低いと感じる。関わる人の意識を変えることが重要。そのあたりの調査、取組があるとよい。</li><li>子育てを親任せになるのではないかと危惧。その辺の提言がほしい。</li></ul>                                              |
| サポートの仕方の改善方策                             | <ul style="list-style-type: none"><li>困りごとがあったときに相談する体制ができていない。地域や関係者に知られる懸念もあり、困った状態をなかなか感知できない。</li><li>医療費が無料でも利用されていないのは保護者が休めない、給料が減る、交通費がかかるから。</li><li>健診での再検査で受診していない人の割合が沖縄は高い。どういう背景の人たちかを、福祉とつなげた分析をするよい。</li><li>医療だけでなく身体的、精神的、社会的なサポートが必要。</li></ul> |
| サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウィンウィンの仕組構築のために | <ul style="list-style-type: none"><li>職員がいっぱいいっぱい人手が足りない。</li><li>学校現場をどうサポートするかが重要。／居場所と学校がつながっていない。</li><li>学生ボランティアの活用等により、みんながちょっとずつでウィンウィン関係をつくっている。</li><li>人材育成も重要。支援員の充実のためにどういう方を採用するのか、どう研修していくのか。</li></ul>                                             |

## 現状の課題、沖縄の方の思い ②第2回協議体でのご意見

- 求められる研究スタンスとしてデータに基づく分析の必要性が挙げられた。
- 幼少期からのキャリアビジョン形成の課題についても指摘も多く挙げられた。

### 第2回協議体におけるご意見(研究ニーズに関わるものの抜粋)

|                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (求められる研究スタンス)<br>データに基づく分析の必要性                  | <ul style="list-style-type: none"><li>● データが集まることを前提にWBを考えること、身体的・精神的・社会的プラス幸福感という分析が必要。</li><li>● 支援とデータのリンクがないため、どの程度の介入、どのような支援が有効だったのか結果が分からない状況。</li><li>● 複数地域での比較、支援を受けた人と受けていない人の差異を見るといったデータに基づく検討が重要。</li></ul>                                                                                                     |
| (研究の視点)<br>検討の進め方(こどもの声の解析、目標設定、バイオ・サイコ・ソーシャル等) | <ul style="list-style-type: none"><li>● こどもが夢を持てる社会を作り、大人がその夢を潰さない社会の構築が重要。「夢」よりもきちんとしたスケールが必要。</li><li>● 何があったら一番助かったと保護者が思ったかが見えてくると、もっと積極的に関われるのではないか。</li><li>● こどもの声を集め、協議体を活用しつつ、それを解析し、政策への反映、効果の検討に使う仕組みが重要。</li><li>● バイオ・サイコ・ソーシャルモデルでは、ソーシャルにはいくつかの要素があるところ。</li></ul>                                             |
| (沖縄における問題点)<br>幼少期からのキャリアビジョン形成の課題              | <ul style="list-style-type: none"><li>● 18歳で高校を卒業すると島外・県外に出るがメンタルがやられて帰ってしまうことが多い模様。</li><li>● 県外の研修会には地理的、費用的な問題で参加しにくいという問題。</li><li>● 産業の種類が少なく、就職先・就学先の選択肢が狭まることで、本人たちが気付かずに制限を受けている。</li><li>● 小学生・中学生のころから県外進学や留学について知ることができれば努力する時間があったのではないかという声あり。</li><li>● 自己肯定感が上がっている印象はあるが、将来に対する不安感が逆に増しているという結果もある。</li></ul> |
| (沖縄における問題点)<br>支援の仕方の工夫の必要                      | <ul style="list-style-type: none"><li>● 支援が必要な家庭の保護者からは支援は不要との声があり、対応しにくい面がある。</li><li>● こどもの経験値が絶対的に不足、周囲の大人が環境をつくる必要。</li><li>● 精神的支援を求める声が小中高生ともに3割前後あり、対応が必要。</li></ul>                                                                                                                                                   |

# 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(1)

## ● ヒアリングの目的・内容(参考)

- 文献調査より整理した課題のうち、情報が少なかったが重要と考えられる課題について、より詳しい内容を求め、課題の深堀を行うべく、知見を有する方々にヒアリングを実施した。

- 対象者:有識者、自治体・行政の担当者、実際にこどもと接する現場の方 10名
- 実施期間:2025年8-9月

## ➤ ヒアリングの内容(概要)

| 個別に異なる質問                                                                                                                                                                                                                                                                         | 全員への共通質問                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. スクールソーシャルワーカーの配置推進と活動の効果について</li><li>2. 「つまづき」をフォローする支援の現状について</li><li>3. 居場所と行政の連携について、その他こどもに近い立場からの視点</li><li>4. こどもの身体的・精神的健康やライフステージを通じた支援に関して</li><li>5. 小規模離島におけるこどものウェルビーイングに関して</li><li>6. こどものウェルビーイングに関するアンケートについて</li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 沖縄のこどもの現状・課題一覧に対するご意見・気づき</li><li>2. こどもへの支援を進めるにあたって効果的な方法・判断に迷う点</li><li>3. 自身の仕事・業務で役立つ研究</li><li>4. 本調査に関するご意見</li></ol> |

## 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(2)

- ヒアリングにて得たご意見・ご指摘を、文献調査による課題の4つの大分類(家庭、学校・保育所・施設、地域社会、その他)で整理した。

### ➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(1/4)

#### 家庭

- 食事・健康
- 医療アクセス
- 親の困難  
(離婚・ストレス・虐待・ネグレクト・  
経済状況・就労状況・無関心)
- 住居・近隣地域の問題
- 自覚・自己肯定感

- ・ 歯医者への通院が課題。受診へのハードルは金銭的問題ではなく、「病院に行かなくてもなんとかなる」という親の意識。歯医者への継続的な通院がこども一人では難しく、学校の歯科検診の結果をこどもが親に渡さないという状況も見られる。
- ・ 沖縄では、鼻水等の非常に軽微な症状で夜間診療を受診する親が多い。地域によっては小児医そのものが減っており、ニーズが過剰となっている。診断書がないと登園させない保育園が多いため、仕事のために親が仕方なく受診している側面もあると聞く。
- ・ 親も困っていることが根底にあり、情報が無い、相談できる人がいないといった課題がある。
- ・ こどもだけでなく保護者の支援についても考える必要があり、そのためには教育・福祉だけでは支援は難しく、医療・保健や司法、心理等様々な分野の学際的な連携が必要。
- ・ 親を含めた「家族丸ごと支援」や18歳までの支援をどのように行うかが重要
- ・ 経済上・生活上の格差と学力の格差の連動、実感として特に体験格差が大きく、ラーケーション事業等の仕組みを活用できる家庭とできない家庭に分かれ、さらに体験格差が広がるのではないかと懸念する。
- ・ 本人たちがどうしたいかを中心に支援すべき。ヤングケアラーの問題などはこどもの権利のはく奪につながることになる。
- ・ 自己肯定感が低いまま社会に出ると、自己肯定感が低い者同士のコミュニティができやすく、よくない連鎖を生むこともある。そこに必要なのが知識。
- ・ こどもの権利の保障や健康、自己効力感といったこども全般として幸せのために、貧困対策と平行に検討を進めなければ、適切な方向性にならない

# 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(3)

## ➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(2/4)

### 学校・保育所・施設

- 学力・学習支援・キャリア教育・ライフプラン教育
- 進学・就学支援・就労支援・自立支援
- インクルーシブ(障害・病気・外国人等の受入態勢)
- 保育・教育現場の制度・体制
- 保育士・教職員以外の支援者の制度・体制

- ・ 家庭教育の脆弱さがあり、就学時時点ですでに差が発生している。発達障害等の特性は幼稚園や保育園のこどもでも存在するが、特別支援学級で支援を受けていないため、就学前の段階でフォローできていない。外国籍のこどもについても同様。
- ・ 学習支援の場にくる子は自ら意欲があり支援を受けられるが、その前段階の(意欲を持てない)子は、学校に行かないために学習支援も受けられず、さらに学校に行きたくなる状態になる。
- ・ 塾に来ることのできないこどもこそフォローが必要。民間組織には専門性に限界があり、各分野の専門性と連携体制を組む必要性がある。
- ・ 進路未決定者や中途退学者は、沖縄は全国の2倍いるとされている。学校卒業後に支援が途切れる課題があり、学校卒業後も考慮して次の進路につなげる支援が必要。
- ・ 学校にいる間は学校(教育)が支援できるが、放課後のこども(福祉)の様子を知る機会が乏しい。行政の社会福祉課、児童福祉等には情報があるが、学校側とうまく共有されていない。放課後に支援する体制に課題がある。
- ・ 教育分野はアウトリーチが苦手であり、福祉分野のように方法が確立されるとよい。
- ・ 困難を抱える生徒を見つける「スクリーニング」を行っている学校は少なく、かつ本島南部に限られる。他地域にどのように広げていくかという点が課題。
- ・ 無業者の割合の高さに対して、企業側が求める人材と、実際にこども・若者ができる仕事をすり合わせる必要があると考える。
- ・ 学校ごとにスクールソーシャルワーカーへの理解度の差異がある。現場側(校長や教師)とのコミュニケーションと連携が必要。
- ・ 離島では幼稚園はあるが保育園がない場合があり、大半の保護者が預かり保育を希望するが、支援員が不足して受入れできない状況がある。一方で、支援員を募集するとしても住居がない等の問題がある。また、住居は担当部署が異なるため横断的な連携が必要。

# 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(4)

## ➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(3/4)

### 地域社会

- 居場所(サードプレイス)(学童・こども食堂等)
- 歴史・文化・価値観(集団意識)
- インターネット・SNS・ゲーム利用

- ・ 居場所に来るこどもの保護者は、学校・行政との関係が良好ではない。民間団体という立場は保護者との関係性が取りやすいため、保護者の情報や課題を関係機関につなげる取組をしている。
- ・ 沖縄も都市化・少子化が進んでいるが、「ゆいまーる(助け合い)」という言葉があるように文化性としては血縁・地縁の強さはあり、それが故に支援がし難い、マイナス面での世代間連鎖といった課題もある。文化も踏まえて、支援者は家庭に入っていく必要がある。
- ・ 若年時の出産が多いことの背景には、「なんくるないさ(なんとかなる)」という文化もあり、こどもが生まれること自体は悪いこととは思わないが、若年の妊産婦への早期支援や性教育の重要性、若年妊産婦の子どもへの手厚い支援等を実施する必要がある。
- ・ 都市部でも親の周囲とのつながりが密接な地域もあるが、孤立した親が多い問題は、新しい住宅街のある地域や都市部において傾向が強いと感じる。
- ・ 離島では1人ひとりがよい意味で目立っている。何をしてもほめてもらえる状況にあり、自己意識が比較的高い印象がある。一方で、島を出るとレベルの高い子がいて心が折れてしまう事例も過去にはある。高校進学後の集団授業を見据えた校外学習を行っている
- ・ 沖縄は車社会であるため、通学がこどもの運動不足解消には効果がない。少しの距離でも車で移動するという車社会のため、親がまず運動しないという側面がある。
- ・ 沖縄では、歩道の整備も十分でなく、安心してこどもが徒歩で通学できる環境が整備されていないと指摘する人もいる。
- ・ 一度離島から本島・内地へ進学等で流出した子どもたちが、沖縄に戻ってきたいと思うような対策が必要だと考える。
- ・ スマートフォンの見過ぎで視力が弱く、板書ができないこどもが多い。また、両親不在であるためにスマートフォンの長時間使用になる。読解力や語彙力の低さにもつながっていると考えている。

# 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(5)

## ➤ 課題の大分類・小分類とヒアリング結果の整理(抜粋)(4/4)

### その他

- 行政手続き・周知
- データ不足
- その他

- ・ こどもに対する現場としては、こどもを追跡調査し、どのようなときに幸福だと思ったか、どのような支援から環境が改善したのか等の分析結果があれば、より効果的な判断ができるようになる。
- ・ 将来的には、今後の離島政策に向けて、離島の全数調査を提言するような内容を示せるとよい。
- ・ 小児医療において、国全体や県全体のデータがあまり取得できていないことに困っている。
- ・ 沖縄の地域によっては世帯間格差が大きく、どの地区に貧困対策として注力するかの検討が必要。
- ・ 貧困対策支援の確保が困難な地域は多い。予算が限られる中で、対策として、オンラインでの支援や企業と連携したメタバースの取組もある。
- ・ 困っている人と支援する側のマッチングが必要。予算をかけて支援メニューを整備されているが、必要な人に届いていない。
- ・ 沖縄の計画に含まれていない事項については対策のための財源等を検討する必要があるのではないか。
- ・ 研究だけで終わるのではなく、実務では各地域で本当に機能するかの事後評価まで実施したうえで政策として正しいかの判断を行う必要がある。
- ・ 支援にあたりこどもの個人情報をどこまで開示するかが難しい。開示してもらえない場合もある。
- ・ 行政担当者が短期間で異動するため、現場担当者のこれまでの情報共有がゼロになり、事業や話が進まない。

## 現状の課題、沖縄の方の思い ③ヒアリングからの具体的指摘(7)

- 文献調査で把握した沖縄の現状課題から抽出した説明が求められる事項について、ヒアリングでも同様の内容が確認された。

### 説明が求められる事項(例)

| 家庭                                                                                                                                                                                               | 学校・保育所・施設                                                                                                                                                                                                                                           | 地域社会                                                                                                                                                                     | その他                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>(例1)困難を抱える家庭におけるこどものWB向上方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どの要素を向上させるべきで、何をすべきか</li><li>・教育・福祉・健康医療(保健)・その他の分野横断的な取組のあり方</li><li>・困難な状況のこどもの見つけ方、意見を聞くための仕組みづくり 等</li></ul> | <p><b>(例3)個人に適した支援の在り方及び情報共有の方法・仕組みの定型化の方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校(教育)と放課後の居場所(福祉)における情報共有の方法・仕組みの定型化</li><li>・ライフステージで連続した情報共有の方法・仕組みの定型化(医療-教育・福祉)</li><li>・個人の特性や環境、状態に合わせた適した時点・適した方法での支援の在り方及び方法・仕組みの定型化 等</li></ul> | <p><b>(例5)沖縄の社会文化的特徴(意識)の把握、それを踏まえた取組のあり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・社会文化(人々の思考スタイル等)の特徴を踏まえたこどものWB向上方策</li><li>・活かすべき文化、改善が求められる文化 等</li></ul>      | <p><b>(例7)沖縄のこどものWBに関するデータ基盤・学術研究のエコシステム構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国と比較可能な沖縄のデータの収集・研究</li><li>・学術研究にも活用可能なエコシステム 等</li></ul>                                                                                                   |
| <p><b>(例2)親とこども両面からみた短期的・中長期的なこどものWB向上の方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・親を含めた教育活動(体験や成長モデル、将来展望の共有、こどもの権利)のあり方 等</li></ul>                                                      | <p><b>(例4)教師のWBを踏まえたこどものWB向上方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教師自身のWB</li><li>・教師から影響するこどものWBの関係 等</li></ul>                                                                                                                        | <p><b>(例6)現在起きている変化に合わせたこどものWB向上方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・都市化による地縁の薄れ、少子化、住宅状況、コロナ禍以降の変化といった変化を踏まえたあり方</li><li>・将来予測される状況・変化を踏まえたあり方 等</li></ul> | <p><b>(例8)支援実現の方策及び仕組み・意思決定方法の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産業界(民間企業)との連携を含めた支援実現(サービス利用やマッチング等)の方策</li><li>・方策の実証・実装・運用・評価の仕組み構築</li><li>・地域に合わせた運用方法の構築及び意思決定方法の構築</li><li>・民間団体の活用</li><li>・支援機関間連携、既存の縦割りを超えた検討の必要性 等</li></ul> |

# 沖縄のこどものWB向上のために説明が求められる事項、求められる知見

- 求められる研究スタンスとしてデータに基づく分析が重要。検討の進め方として、こどもの声の解析、目標設定の検討も重要。

|                | 研究の基本方針                                                                                                                  | 沖縄のこどものWBの構造説明                                                                                                                                                                                            | 効果的なサポートのあり方の説明                                                                                                           | サポート供給体制、その他                                                                                                                                                                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協議体でのご意見より     | <div>【A1】<br/>(求められる研究スタンス)<br/>データに基づく分析の必要性</div> <div>【A2】<br/>(研究の視点)<br/>検討の進め方(こどもの声の解析、目標設定、バイオ・サイコ・ソーシャル等)</div> | <div>【B1】<br/>・こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題<br/>・(沖縄における問題点)幼少期からのキャリアビジョン形成の課題</div> <div>【B2】<br/>こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上のあり方</div>                                                                      | <div>【C1】<br/>・サポートの仕方の改善方策<br/>・(沖縄における問題点)支援の仕方の工夫の必要</div>                                                             | <div>【D1】<br/>サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウインウインの仕組構築のために</div>                                                                                                                                                  |
| 文献調査・ヒアリング調査より |                                                                                                                          | <div>【B3】<br/>親とこども両面からみた短期的・中長期的なこどものWB向上の方策 <span>家庭</span></div> <div>【B4】<br/>教師のWBを踏まえたこどものWB向上方策 <span>学校・保育所・施設</span></div> <div>【B5】<br/>沖縄の社会文化的特徴(意識)の把握、それを踏まえた取組のあり方 <span>地域社会</span></div> | <div>【C2】<br/>困難を抱える家庭におけるこどものWB向上方策 <span>家庭</span></div> <div>【C3】<br/>現在起きている変化に合わせたこどものWB向上方策 <span>地域社会</span></div> | <div>【D2】<br/>個人に適した支援の在り方及び情報共有の方法・仕組みの定型化の方策 <span>学校・保育所・施設</span></div> <div>【D2】<br/>支援実現の方策及び仕組み・意思決定方法の構築 <span>その他</span></div> <div>【D3】<br/>沖縄のこどものWBに関するデータ基盤・学術研究のエコシステム構築 <span>その他</span></div> |

※【凡例】A1,A2等の記号は以降のページとの関連性を示す

### 3. 沖縄のこどものWB向上のための政策研究 のテーマ例

---

# 研究テーマ例

---

- 協議体でのご意見、文献・ヒアリング調査での課題整理をもとに以下4つのカテゴリーに分けて研究テーマ例を掲載。
- 他にどんな研究テーマが求められるか、お気づきの点があればご意見をいただきたい。

①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)



次ページ以降に紹介

# 研究テーマ例 ①現在、顕在化している問題点に対応するテーマ

- 支援者間の連携、困っている層への支援等については、協議体やヒアリングで多くご意見があり、対応が必要ではないか。

【凡例】A1,A2等の記号は前掲の図との対応を示す

## ①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

| 把握したい事項(ニーズ)                            | 研究テーマ例                                                                                                     | 問題意識、アプローチ例                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援者間での連携を効果的に進めるにはどうしたらよいか <b>D1 D2</b> | <b>支援機関間の効果的な連携方策に関する研究</b><br>【趣旨】支援者間での情報連携、こどもへのサポートのつながり等の面で課題があり、解決が期待される。                            | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>こどもに関する情報を</u>、簡易かつ個人情報管理をしつつどのように共有するか。</li><li>● <u>こどもに連続した対応をするため</u>、例えば、学校と居場所との連携をどう進めるか。</li><li>● 最適な支援に向けた<u>支援組織間の連携、の分業体制の見直し</u>。等</li></ul>     |
| 困っている層への支援の仕方をどう改善できるか <b>C1 C2</b>     | <b>サポートの仕方の改善方策に関する研究</b><br>【趣旨】支援が必要な家庭にどう支援を届けるか(不要と言われてしまう問題等)、体験格差、精神的な面での対応等どのようなサポートが有効かの説明が期待される。  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 困っている層における<u>各種問題の構造、関係の分析</u>。</li><li>● 困っている層に<u>負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届ける方法</u>を解明。</li><li>● 教育・福祉・保健分野にまたがった支援策について<u>実験的アプローチ</u>も含めて検討。</li></ul>             |
| こどもの声の把握、活用をどう進めるのが効果的か <b>A2</b>       | <b>こどもの声の把握、対応の方策に関する研究</b><br>【趣旨】こどもの意見(view)を聴く取組は全国では始まっているが、模索段階にある。どのように声を把握し、対応を進めることが有効かの説明が期待される。 | <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>こどもの声の把握</u>に関する有効事例の検討、実験的アプローチ。</li><li>● <u>こどもの声への対応</u>に関する事例調査、政策や現場での取組への活用方策の検討。</li><li>● <u>新技術の活用(例:表情や声のAI解析技術)</u>の可能性を視野に入れた研究も期待される。</li></ul> |
| バイオ・サイコ・ソーシャルの横断的な問題把握 <b>A2</b>        | <b>バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる分析</b><br>【趣旨】バイオ・サイコ・ソーシャルの観点でこどもを複層的に捉える分析が発展途上のため、今後研究を強化し、課題や対策の検討につなげることが求められる。  | <ul style="list-style-type: none"><li>● バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる視点での実態を把握し、解決の方向性を見出す。</li><li>● 困っている層において健康診断の受診率が低い等の問題がある。貧困状況による健康格差、体験格差等も指摘されている。</li></ul>                                             |

## 研究テーマ例 ②長期的な政策の方向性を考えるためのテーマ

- 沖縄のこどものWBの構造について未解明の部分を解明し、政策検討の基本的知見として活用することが求められるのではないか。

### ②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

| 把握したい事項(ニーズ)                                   | 研究テーマ例                                                                                                                              | 問題意識、アプローチ例                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 沖縄のこどもが大人になるまでの成長過程を見通して、望ましい対応は何か <b>B1</b>   | <b>こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なWBの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究</b><br>【趣旨】現状、沖縄のこどもの主観的幸福度は比較的高いが、大人への発達過程全般を見通した場合に課題がある可能性がある。発達過程全般にわたる検証が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 沖縄のこどものWBが大人への発達過程においてどのように変化するか、その要因は何か、同一集団を10年以上継続的に調査し、解明することが有効ではないか。</li><li>● 短期的には、大人になった人にこども時代を振り返ってもらい、WBに影響する因子を抽出するアプローチが考えられる。</li><li>● 現状、教育・福祉・保健にまたがる同一年出生集団(コホート)の研究事例は少ない。</li></ul> |
| こどものWB向上のためにおとなのWB向上をどう進めるべきか <b>B2 B3 B4</b>  | <b>こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究</b><br>【趣旨】こどもに関わる大人の幸福度が上がると子どもの幸福度もあがることがわかっている。こどもに関わる大人のWBをいかに向上させられるかの解明が求められる。                        | <ul style="list-style-type: none"><li>● こどもに関わる大人(保護者、教師、支援者等)のWBが高いとこどものWBも高まる傾向がある。大人のWBの因子については各種の研究がある。</li><li>● こどもに関わる大人のWBを向上させるために何が重要か、政策的対応の可能性はないか等を解明することが求められる。</li></ul>                                                          |
| 他県とは異なる沖縄の社会文化の特徴は何で、こどものWB向上にどう生かすか <b>B5</b> | <b>沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究</b><br>【趣旨】沖縄には他県とは社会文化がある。その特徴を把握するとともに、沖縄のこどものWB向上のために必要な対応の検討に活かすことが求められる。                               | <ul style="list-style-type: none"><li>● 例えば、ゆいまーるの文化、なんくるないさーの文化、離島性、産業構造に基づくメンタリティ等の特徴は、現在も続いているか。どのように変化しているか。</li><li>● 沖縄のこどものWB向上のために、沖縄の社会文化の特徴をどう踏まえて対応すべきか。</li></ul>                                                                    |

## 研究テーマ例 ③政策の効果・評価のためのテーマ、データ基盤整備

- こどものWBの状況把握、政策効果把握等のためにデータ基盤整備が求められるのではないか。

### ③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

| 把握したい事項(ニーズ)                                  | 研究テーマ例                                                                                                                                                                                          | 問題意識、アプローチ例                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 沖縄のこどものWBの基本的なデータ整備<br>A1 D3                  | <b>沖縄のこどもWBの定点把握</b><br>【趣旨】沖縄のこどもWBの基礎データとして定点的に調査を行い、様々な分析に活用することが求められる。                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>● 沖縄県庁において実施しているこどもの実態調査を定点調査化し、時系列的な変化、各種層別の比較検討等の分析のベースとすることが考えられる。</li><li>● それとは別に、教育・福祉・保健にまたがるこどものデータを収集・蓄積・分析する仕組みの検討が考えられる。</li></ul>                      |
| 沖縄のこどものWBの指標体系の作成と政策評価に活用できるデータ基盤の整備<br>A1 D3 | <b>沖縄のこどもWBの指標体系の作成</b><br>【趣旨】沖縄のこどもWB実現を目指すにあたり、WBの指標体系を作成し、各種政策がWBにどのように貢献したかを把握するための基本データとする。<br><b>政策の効果、政策の評価のための研究</b><br>【趣旨】沖縄のこどものWBへの貢献を目標として、各種政策の貢献状況の把握、より効果的な推進方策の検討を行うことが求められる。 | <ul style="list-style-type: none"><li>● こどものWBに関する各種指標体系を参考にしつつ、沖縄において重視する観点を加えて、WBの指標体系を作り、それに基づく定点調査、政策効果分析等に活用することが考えられる。</li><li>● こどものWBに関する各種指標体系の作成と合わせて、政策の効果分析を行い、政策の改善に活用することが考えられる。</li></ul> |

## 研究テーマ例 ④その他

- 民間主体によるWB向上の可能性研究、最新トレンドへの対応、研究戦略の立案のための研究等も求められるのではないかな。

### ④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)

把握したい事項(ニーズ)

研究テーマ例

問題意識、アプローチ例

民間主体によるこどもWB向上をどう実現するか

D4

**民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究**

【趣旨】民間の支援団体、民間企業の活動、地域の活動等、行政だけでなく各種主体による効果的な取組の可能性を探り、民間主体の活動に活かすことが求められる。

- こどものWB向上のためには、行政による対応だけではなく、民間主体の役割が大きい  
が、民間主体における取組の可能性についての研究は発展途上である。
- 民間主体があまり負担を感じずに、こどものWB向上に役立つ活動ができるような共助  
モデルを見出すための研究が必要ではないか。(例:時間や場所の活用、シェアハウス等)

最新トレンドにどう  
対応するか

C3

**ネット社会の影響と対策に関する研究**

【趣旨】SNS等の普及はこども社会に多大なる影響を与えているが、その実態は十分解明されていない。最新トレンドにタイムリーに対応した研究が求められる。

- こども社会の意識に大きな影響を与えているSNS等について最新の状況を把握し、影  
響の分析、対応のあり方の検討を行う。
- 地域での取組に留まらず、国の規制等のあり方の検討も必要となる可能性もある。

こどものWBに関す  
る研究戦略立案のた  
めの研究

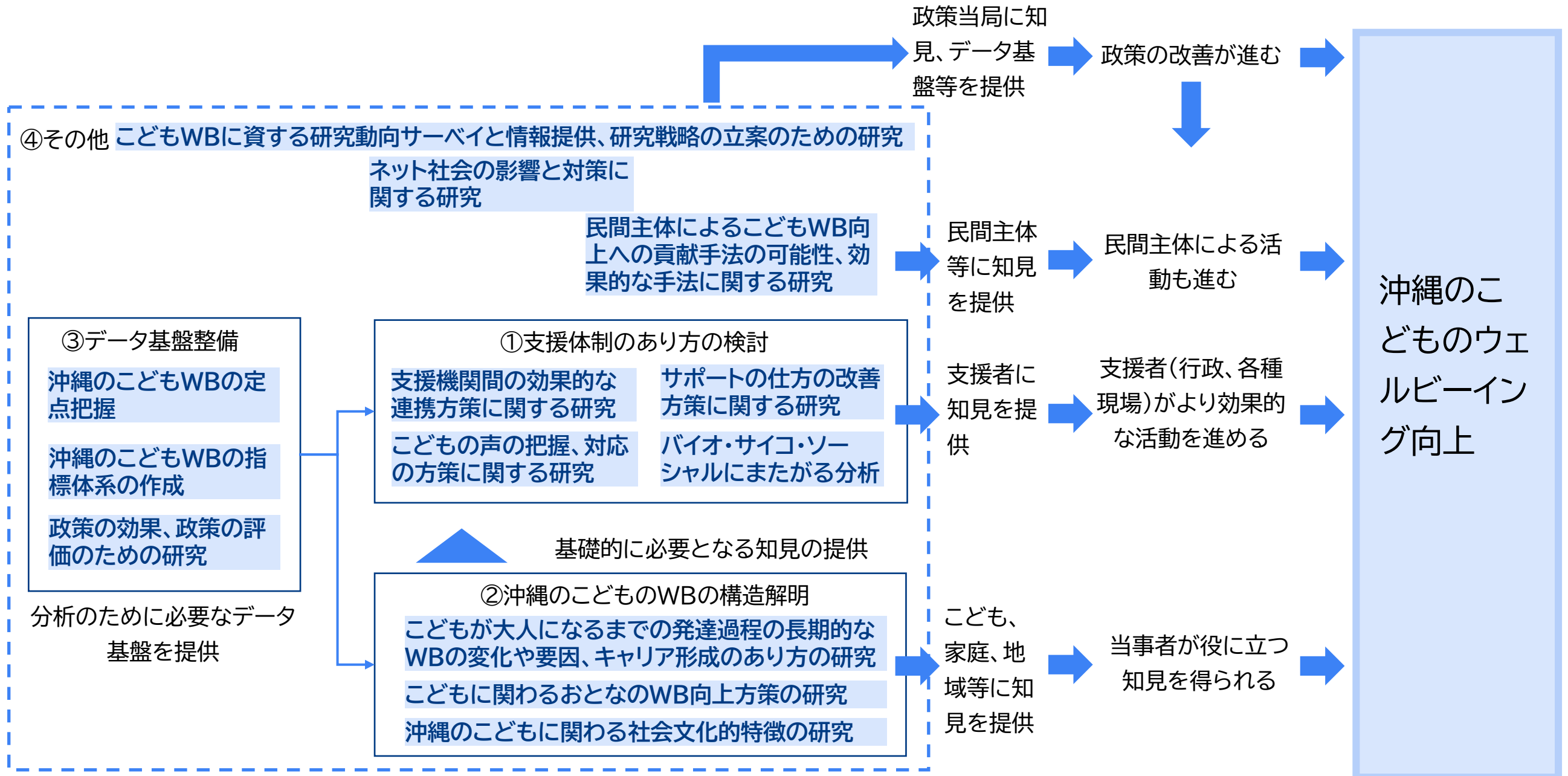
前掲図にないが、  
全体に関わる

**こどもWBに資する研究動向サーベイと情報提供、研究戦略の立案のための研究**

【趣旨】こどもWBの実現に向けて参考となる知見を常時  
収集し情報提供することが求められる。また、研究戦略の  
立案のための研究が求められる。

- こどもWBに貢献する既存の知見、研究動向をマッピングし、分野横断的に研究動向を  
サーベイするとともに、その結果を関係機関に解説とともに情報提供し、活用を促す。
- 沖縄のこどものWB実現に向けて特に研究が必要とされるテーマを検討するため、沖縄  
の現状、国内外の研究動向等を勘案して研究戦略を立案するための研究を行う。

# (参考)研究テーマがこどものWBにつながる関係性イメージ



# 参考資料 既存の知見等

---

# 既存の知見の例 ①こどもの長期的成長の把握

- こどもの人間関係、貧困等がこどもの健康、WBに及ぼす影響の分析事例あり。
- 沖縄のこどもの成長という観点での長期的調査の有効性は大きいのではないか。

こどものコホート研究の事例

| 実施国/名称/実施者                         | 目的                                                       | 条件                                                                                                                                                     | 調査項目/研究成果等                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【米国】ハーバード成人発達研究)/ハーバード大学           | ● 最も幸せで健康的な生活を送った人々を区別する特定の属性、行動、実践を特定。                  | ● 1938年開始。当時ハーバード大学2年生の男子学生とボストンの極貧環境で育った少年たちを追跡調査。現在90代。                                                                                              | ● 【研究結果】「良好な人間関係が人生の幸福と健康に最も大きな影響を与える」ことを発見。書籍『グッド・ライフ 幸せになるのに、遅すぎることはない』（2023年）                                                                                                                                                |
| 【英国】ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドンによる複数のコホート研究 | ● 調査対象のコホートについて生活のさまざまな側面に関する情報を収集し、研究者にデータを提供。          | ● 1958年出生集団を対象とした「全国児童発達研究(NCDS)」<br>● 1970年出生集団を対象とした「英国コホート研究」<br>● 1989-90年出生集団を対象とした「Next Steps」(中学生から)<br>● 2000-02年出生集団を対象とした「ミレニアムコホート研究(MCS)」他 | ● 【調査項目】身体的、社会感情的、認知的、行動的発達、経済状況、子育て、人間関係、家族生活などの測定をライフコース全体で追跡。<br>● 【研究成果】(例)親になることは、心理的苦痛の軽減よりも、生活の満足度向上に大きな影響を与えました。初産年齢がより高いことは、より良いメンタルヘルスと関連していた一方、子どもの数がより多いことは、女性ではメンタルヘルスが悪化する要因となったが、男性ではそうではなかった。(R.Mansfield,2025) |
| 【日本】ハマスタディ/横浜市                     | ● 結婚・子育て世帯の生活の質向上を目指す。                                   | ● 1万組の若い夫婦(2022年時点で20～39歳の妻)を無作為に抽出し、調査票を毎年送付。5年間追跡調査。                                                                                                 | ● 【調査項目】計画された子供の数に関連する要因、夫婦の幸福度、育児支援政策、家事・育児の外部化、父親の家事・育児参加、妻の自由時間、孤独感や社会とのつながり、配偶者との関係、働き方やワークライフバランス等。<br>● 【研究結果】貧困や社会経済的格差が、子どもの健康、教育成果、精神的ウェルビーイングに長期的に悪影響を与えることを示す。また、親の健康や精神状態、養育態度が子どものウェルビーイングに大きく影響することも明らかに          |
| 【日本】子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)/環境省  | ● 化学物質のばく露や生活環境など、胎児期から小児期にわたる子どもたちの成長・発達に影響を与える環境要因を解明。 | ● 2011年1月から参加者の募集を開始。<br>● 参加者(お子さん)が40歳程度になるまで調査を継続することを見据えて、まずは参加者(お子さん)が18歳に達するまでの計画を立てて調査を進めている。                                                   | ● 【調査項目】質問票(紙もしくはWEB)への記入、血液・尿・毛髪などの試料を採取・提供。お母さんやお子さんの診療状況や健康状態の調査。<br>● 【研究成果】(例)妊娠中や授乳中の女性が、特定の化学物質に高い濃度でさらされる場合、その子どもに影響が表れるおそれがある。                                                                                         |

出所) 以下資料よりMRI作成  
Harvard Study of Adult Development (HSAD) <https://www.lifespanresearch.org/>  
英国Millennium Cohort Study(MCS) <https://cls.ucl.ac.uk/cls-studies/millennium-cohort-study/>  
Rosie Mansfield 他(2025)“Parenthood and Mental Health: Findings from an English Longitudinal Cohort aged 32” <https://cls.ucl.ac.uk/wp-content/uploads/2025/07/CLS-working-paper-2025-4-parenthood-and-mental-health.pdf>  
横浜市立大学ハマスタディ <https://www.hamastudy.net/about>  
環境省エコチル調査事業紹介ページ <https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/why.html>  
環境省「エコチル調査」成果紹介パンフレット <https://www.env.go.jp/content/000215015.pdf>

## 既存の知見の例 ②こどもに関わるおとな、支援者のWBとの関係

- 親、教師のWBがこどものWBに影響を及ぼすことについて既存研究がある。
- このテーマは発展途上であり沖縄で研究する意義はあるのではないか。

保護者、教師がこどものWBに及ぼす点についての研究事例

| 実施国/名称/実施者                                   | 研究成果(一部)                                                                                                                                         | 備考                                                                                                            |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【日本】ハマスタディ/横浜市                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困や社会経済的格差が、子どもの健康、教育成果、精神的ウェルビーイングに長期的に悪影響を与えることを示す。また、親の健康や精神状態、養育態度が子どものウェルビーイングに大きく影響する。</li> </ul> |                                                                                                               |
| 【世界】小児期と青年期の教育における幸福の研究(2022年)/Laura Taylor他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師の幸福は生徒の幸福の予測因子であり、幸福政策は教師の幸福をサポートする方法を強調する必要がある。※</li> </ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● オクスフォード大学ウェルビーイング研究センターと国際バカロレア機構との共同研究(既存研究のレビューによるメタ論文)</li> </ul> |

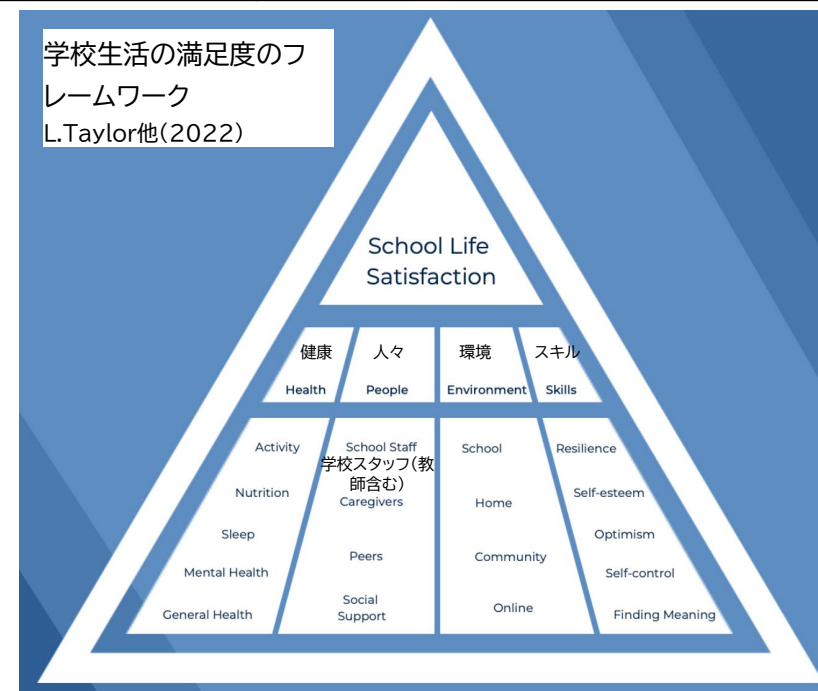
※具体的記述(L.Taylor他(2022) "Well-being in education in childhood and adolescenceより) 89-90ページ

- 学術文献によると、教師のウェルビーイングと生徒のウェルビーイングの間には関連性があることが示されています：教師が幸せであれば、生徒も幸せである傾向があります(Hurry et al., 2021)。
- 小学校の教師のウェルビーイングに関する定性的研究では、教師たちは、子供たちは教師の気分に敏感で、教師がストレスを感じていることを通常、察知できると報告しています。興味深いことに、教師がそれを隠そうとしても、子供たちはそれを察知していたのです(Glazzard & Rose, 2019)。
- 教師との良好な関係は、生徒のウェルビーイングだけでなく、学業成績などの他の要因にも良い影響を与えます(Howes & Hamilton, 1992; Milatz et al., 2015)。
- 教師たちは、この職業に留まる主な理由として、生徒たちとの関係をよく挙げています(O' Connor, 2008)。
- 一方、小学校と中学校・高校の両方における定性的研究では、生徒との関係が教師の喜びとモチベーションの重要な源泉であることが明らかになっています(Hargreaves in Spilt et al., 2011)。
- 教師は、仕事自体に関連するネガティブなウェルビーイングの影響やストレス要因を経験することが多い——例えば、同僚とのやり取りや上司との衝突など(Tebben ら、2021)。
- これらの頻度や影響を最小化することは、教師のウェルビーイングを改善する可能性があります。

出所) 横浜市立大学ハマスタディ <https://www.hamastudy.net/about>

国際バカロレア機構 "Well-being in education in childhood and adolescence (2022)" <https://ibo.org/research/wellbeing-research/well-being-in-education-in-childhood-and-adolescence-2022/>

L.Taylor他(2022) "Well-being in education in childhood and adolescence" <https://ibo.org/globalassets/new-structure/research/pdfs/wellbeing-in-schools-in-childhood-and-adolescence-final-report.pdf>



## 既存の知見の例 ③学問分野別アプローチ例

- WBの構造解明、支援のあり方、効果検証、デジタル化の影響等の研究が進展中。

表 こどものウェルビーイングに関連する様々な学問分野と現在の研究課題の動向(例)

| 分野   | 該当学問                                        | WBの構造解明                                                                                                                                                                                 | 支援のあり方                                                                                                                                                             | 効果の検証                                                                                                                         | その他                                                                                                                          |
|------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育   | 教育福祉論<br>教育心理学<br>発達心理学<br>教育経済学<br>教育社会学   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● WBに影響を与える要因の特定とメカニズムの解明</li> <li>● 長期的な視点と縦断研究の不足</li> </ul>                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な困難を抱える子どものWB支援</li> <li>● こどもの参加と意見表明の保障</li> <li>● 教員・保育者の専門性向上と支援体制</li> <li>● 教育と福祉の連携・協働の実効性向上</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育的介入の効果検証と実践への応用</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルデバイス・SNSとこどものWB</li> </ul>                                                      |
| 福祉   | 保育学<br>社会福祉学<br>社会格差論<br>社会保障論              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● こどもの視点を取り入れたウェルビーイングの把握と評価</li> <li>● 環境要因と個人要因の相互作用の解明 例:保護要因(レジリエンス)の特定</li> <li>● 貧困がWBに及ぼす影響のメカニズム解明</li> <li>● 格差のライフコースと世代間連鎖</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 複合的・包括的支援の有効性と評価</li> <li>● 政策介入による格差是正とWB向上</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育実践におけるウェルビーイングの具現化と評価</li> </ul>                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタル化・社会変動への対応</li> </ul>                                                           |
| 保健医療 | 公衆衛生<br>成育医療<br>小児科学<br>児童精神医学<br>医療経済学     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康の社会的決定要因(SDH)の複雑性と多層性</li> <li>● WBの多角的評価と発達段階に応じた測定</li> <li>● 医療的介入がこどものウェルビーイングに及ぼす長期的影響の解明</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予防的介入の有効性と費用対効果の検証</li> <li>● 家族支援と多職種連携の実効性向上</li> </ul>                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期的な因果関係の特定と早期介入の効果評価</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな健康課題への対応とデジタルヘルスの活用</li> <li>● 医療技術の進歩と倫理的課題への対応</li> </ul>                      |
| その他  | 心理学<br>法学<br>行動経済学<br>家族社会学<br>人口学<br>労働経済学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な家族形態におけるWB理解(家族社会学)</li> <li>● 多様な家族形態とこどものWB(法学)</li> <li>● 人口移動と多様性に関するWB(人口学)</li> <li>● 親の多様な働き方と子どものWB(労働経済学)</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予防的アプローチと早期介入の強化(心理学)</li> <li>● こどもの意見表明権と参加の制度設計と実効性(法学)</li> <li>● デジタルナッジとゲーミフィケーションを通じた子どもの健康・教育促進(行動経済学)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフコースを通じたウェルビーイングの動態と介入効果(家族社会学)</li> <li>● 子育て支援政策の労働市場を通じた効果と限界(労働経済学)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルテクノロジーとこどものウェルビーイング</li> <li>● 脳科学的アプローチ</li> <li>● デジタル環境におけるこどもの権利</li> </ul> |

出所)各所書籍、論文、AI解析等によりMRI作成